

③ 第1次実施

協力館（関東ブロックを中心に依頼したい）に対して、当該県下からのレファレンス依頼のうち基準にあうものを回付し、他方依頼者に対しては当館より地元館へ回付の旨知らせる。

④ 第2次実施

第1次実施の結果を総括し、全国各館との協議を経て、全国的に実施する。

以上について、近く、近県図書館と細目の具体化について相談する機会をえたい。

研究集会である以上、「レファレンスの集中状況や事例」「なぜ大都市図書館に集中するのか」「この提案の方式で効果があるのか」等について、より研究的に報告すべきであったかもしれない。しかし時間を気にしつつ駆足で上記の要旨を述べるのが精一杯であった。そのためかどうか、残念ながら筆者の報告には質問もほとんどなかった。その上一つ

だけきびしい批判をいただいた。「先に印刷カードの自由選択打切りの通告をきいて、国会が公共図書館にとってますます利用しにくいものになった感を抱いていたが、今また突然爆弾的な話をきいて、国会がより遠いものになったという感じをうけた」と。報告は形の上では一応出席の各県立代表によって了承をいただいたが、審議は卒直にいつてつくされなかった。このことを忘れず、又上記の発言をも心にとめて、具体化につとめたいと考える。

筆者にとってはじめての研究集会の参加であり、きわめて有意義であった。散会後夜おそくまで各地の館員と語りあい、又、10数年ぶりに旧交を温めえたことも忘れがたい。ただ一つだけ残念なことは、議題に対する討議時間の不足である。短い予定時間をさらに運営上大巾に切りつめるのは今後決してくり返してほしくないことである。

（いとう・まつひこ：一般参考課長補佐）

国立国会図書館長と東海地区大学図書館長との懇談会に出席して

佐久間 信子

国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会は、昭和35年1月からすでに大小あわせて22回、各地域において開催されている。

今回は名古屋大学において、昭和46年11月16日午後1時30分から4時40分まで行なわれた。国公立大学図書館と当館とが一堂に会して論議を行なうことは、国立の図書館としての相互協力の中核的役割からみて極めて意義深いことと思われる。それだけに、当日出席者の中で当館のレファレンス業務について十分周知していない図書館も見受けられたので、あらゆる機会を捉えて根気よく周知徹底

の努力を続けることの必要性を痛感した。

後日、この会の報告書も出ると思うが特に参考業務について、時間不足のため質疑応答が行なわれなかったこともあるので、当方があらかじめ用意した説明の要旨をここに記しておきたい。大学以外の館種にも共通する点が多いので各方面のご協力をお願いしたい。

- 1 全国の各大学図書館からのレファレンス依頼は、ひきつづき活発であり、昭和45年度は1,663件であった。このほか図書館、図書室を経由しないで附属研究機関、教授

研究者、学生からのレファレンス件数も多数に上っている。

2 これらのレファレンスのうち、文献の所在調査（およびこれに基づく複写依頼）が大部分をしめている。昭和45年度は1,663件中、1,167件であった。（7割が所蔵調査依頼）

3 図書館を経由しないものには、当館の蔵書目録類や、基本的な総合目録類を検索すれば容易に判明するものが少なくなく、特に研究室や、研究者個人、学生よりの問い合わせにはこの種のもが大変多い。これは、双方にとって時間、労働力とも大きなロスなので、これら蔵書目録類の完備と活用、学内研究者、学生への周知が一層望まれる。

特に所蔵調査から複写依頼に続くものは直ちに当館専用の複写申込用紙によって依頼すれば時間の短縮になる。したがって中央館（図書館）を経由することをお願いしたい。

4 当館発行の蔵書目録類の未所蔵館は、すでに都道府県立図書館に送付してあるので最寄りの都道府県立図書館へ問い合わせることをおすすめしたい。地域における相互協力のネットワークづくりが要望される。

5 本年1月、全国の国公立大学のうち、当館へのレファレンス依頼の多い79大学を選び、蔵書目録類の備付状況の調査（国立国会図書館蔵書目録等の所在調査）を試みた。回答についてのご協力に謝意を表するとともに、その要点を報告する。（国立大学については「国立大学図書館協議会ニュース」に折込んで報告される予定）

a 当館の和・洋の蔵書目録は、特に和について10数館に欠巻がある。三種類の雑誌目録についても同程度の欠巻がある。

b 帝国図書館の蔵書目録は、完備しているところが極めて少なく（京都大学図書館のみ完備）特に洋については、大部分が全く所蔵していない。

c 総合目録については、当館の『新収洋書総合目録』は一部を欠く館が多い。岩波の『国書総目録』は、二館を除いてすべて所蔵されているが、文部省の『学術雑誌総合目録』は、欠巻のある館が若干ある。これらの整備活用が望まれる。

6 『帝国図書館和漢図書書名目録』第2～5編については、若干の残部があるので寄贈申込（郵送料とも）があれば送付できる。

7 複写は、当館専用の「複写申込書」の用紙でないと受け付けない。現在各都道府県立図書館および全国62大学図書館には配布済みである。必要な図書館は、当館閲覧部運営課あて要求してほしい。

8 特に図書館からのレファレンス回答は、迅速を心掛けている。郵送の期間もあらかじめ考慮して早めに依頼してほしい。洋雑誌で特に複写依頼の集中するタイトルもある。

9 各館の蔵書目録の発行を要望したい。特に旧帝大の蔵書を母体としている図書館の戦後受入の蔵書目録発行が皆無であるが、レファレンス相互協力発展のためにも作成方が望まれる。

10 当館のレファレンス・サービスの要領は、各館に配布済の「レファレンス・サービスについて」の通りである。しかし、この初歩的な事務処理についての理解が欠けている点を強調しておきたい。レファレンスを依頼する場合は、

a 依頼者は学生か研究者かの区別、依頼の目的、研究内容等を明記してほしい。

b すでに調査（使用）した資料を列挙

し、不明の点を明確に記してほしい。
以上のような記録があると、回答作成上非常に参考になるばかりでなく、暗中模索することなく、時間の短縮となる。場合によっては、先に記したような点について折り返し問い合わせねばならず、時間のロスとなる。

11. まれにはあるが、大学図書館から次のような文書レファレンスの依頼がある。
「夜尿症に関する論文、書物、研究書をすべて紹介して下さい。」

当館としては、文献目録の作成はしていないわけではないが、上記のように一主題ではあるが雑誌、単行本等広範囲(日本語の文献だけか、外国の文献も必要なかも不明)にわたる文献目録の作成は、人手と時間を要し、他の業務に支障を及ぼすことがある。学生、研究者にとって文献目録の作成は研究の一部であると思われるので、当館はその作成の補助的な役割を果たすことにとどめたいと思う。

(さくま・のぶこ：一般参考課主査)

(72頁からつづく)

みすず書房 昭和43～昭和46

(312.1-U495u₂)

第2巻：宇垣の荒木陸相感想 821p、荒木の手腕に対する感想 842p 5・15事件後の荒木陸相留任に対する憂慮 848-9p 荒木の不決断に対する不満 852p 陸軍内軍紀破壊者としての荒木 910p 荒木の陸相辞任に対する感想 946p 国体明徴問題にかかわる荒木への批判 1034p 2・26事件の際の荒木について 1051p 上原元帥の荒木人脈養成への批判 1055p 2・26事件関係者処罰と荒木 1125p

第3巻：陸軍の脱線ぶりと荒木・真崎 1534p

6. 主な軍事史関係図書に現われる荒木貞夫

(i) 高宮太平 軍国太平記

酣燈社 昭和26 354p

(312.1-Ta344g)

荒木と真崎の黎明期 94～97p 十月事件と荒木との関係 125～133p 荒木の陸相時代 135～156p 2・26事件直後の軍事参議官会議における荒木の主張と役割 251～277p

(ii) 秦郁彦 軍ファシズム運動史

河出書房新社 昭和37 364, 13p

(210.73-H312g)

10月事件、5・15事件と荒木との関係 32～71p 荒木と皇道派の思想 72～82p

(iii) 高橋正衛 昭和の軍閥

中央公論社 昭和44

(AZ651-10)

168～195p